

# 市民参加型まちづくり1%システム 事業成果発表会

日時:平成28年7月18日(月・祝)  
場所:ヒロロスクエア イベントスペース

## 次 第

1. 開会
2. 成果発表
3. 総評
4. 挨拶
5. 閉会



【担当】  
弘前市市民文化スポーツ部  
市民協働政策課 市民協働係

# 事業成果発表会予定表

開始時刻	事業名	団体名
開会		
13:10	「組ねふた制作技能継承事業 ー組ねふたを見直そう」	弘前ねふた参加団体協議会
13:20	世界一の桜並木道をノルディック・ウォーク	青森県ノルディック・ウォーク連盟
13:30	第13回ホームムービーの日	HMD弘前
13:40	手造り屋台村	小沢地区屋台村実行委員会
13:50	ナインナイトプロジェクト「どん舞」	弘前ナインナイト実行委員会
休憩15分(14:00～14:15)		
14:15	第2回 日本・台湾友好音楽祭	弘前市民俗芸能保存連合会
14:25	ラベンダーロード再生事業	相馬地区小・中学校PTA連絡協議会
14:35	過疎地域スポーツ推進事業 「スポーツゲンキッズ教室」	特定非営利活動法人 スポネット弘前
14:45	甞れ、雑種地から交流農園へ(2期事業)	向外瀬町会
14:55	弘前駅前遊歩道賑わい祭 JAZZ DAY 収穫祭	弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会
総評		
閉会		

## 事業目的

江戸時代から津軽地方で制作されてきた伝統的なねぶた灯籠の様式である、組ねぶたを作る団体が年々減少してきていることから、組ねぶたを制作する技法の分析や整理を行い、マニュアルを作成しねぶたを作成する団体等に配布することで、組ねぶたの技術の伝承を図る。

## 事業内容

弘前ねぶた祭りに参加している団体の中で、組ねぶたを制作している4団体の制作技術者に集ってもらい、5回の「組ねぶた勉強会」を実施した。  
組ねぶた制作の現状を広く地域に発信するため、「組ねぶたシンポジウム」を開催し、組ねぶたの歴史や制作技法をまとめた『組ねぶたを見直そう』を発刊した。

事業実施場所：文化センター、CASTほか

事業実施期間：平成27年7月1日～平成28年3月31日

参加者数：185人

補助金確定額：500,000円（事業費：1,059,415円）

## 事業による効果

「組ねぶたシンポジウム」では、組ねぶたの歴史や制作現場の現状をシンポジウム形式で解説し、認知度の向上を図ることができた。  
組ねぶたの歴史や制作技法をまとめた冊子『組ねぶたを見直そう』を、ねぶた団体や市内各小中学校、図書館等へ配布することで、さらなる認知度の向上や、学校教育現場等での制作の契機増大につながることを期待できる。

## 今後の活動展開

「組ねぶたを見直そう」を広くPRし、さらなる認知度の向上を図りたい。  
組ねぶたの文化継承に向けて、協議会ホームページでの情報発信や、組ねぶた制作の機会を設けていきたいと考えている。

## 自己評価



組ねぶたの文化継承に、「組ねぶたシンポジウム」の開催と「組ねぶたを見直そう」の発刊が、十分に寄与貢献し、今後の継続的な活動に向けて弾みをつけることができた。



## 事業目的

比較的気軽に、誰でも取り組めるスポーツとして、2本のストックを使って歩く「ノルディック・ウォーク」の普及を図るために開催する。コースは7kmと18kmの2つを設け、世界一の桜並木や水芭蕉、文学碑などを観賞し、嶽を満喫してもらいながら、運動不足の解消や生活習慣病対策などの機会を創出する。

## 事業内容

7kmコース、18kmコースのいずれかを2本のポールを持ってウォーキングした。オオヤマザクラの花びらが舞う中、水芭蕉や文学碑、記念碑などを鑑賞しながらウォーキングを楽しんだ。

事業実施場所: 世界一の桜並木道(岩木青少年スポーツセンター～岩木山観光協会)  
 事業実施期間: 平成27年5月2日  
 参加者数: 240人  
 補助金確定額: 250,000円(事業費: 370,885円)



## 事業による効果

3回目の開催となったが、このウォークの開催が市民や地域に定着しつつあり、市内からはもちろん、市外からも多数の参加者があった。また、このウォークを大手旅行会社で商品化したこともあり、県外からの誘客もあった。

## 今後の活動展開

桜の開花状況が参加者に大きく影響することから、実施日を見直し、開花にあわせて開催できるように工夫する  
 現在の設定コースでは桜の開花状況に差がみられるため、標高差を考慮したコースを設定するなど、コース設定を見直したい。

## 自己評価

ノルディック・ウォークの効用等が徐々にではあるが浸透しつつあり、参加者が増えているほか、自前のポールで参加する方も増えた。また、ウォークを通じて市外はもとより、県外からの参加者も増えていることは、市民の健康づくりの他に、観光面でも注目されたということであり、今後の事業の展開に期待がもてる。



## 事業目的

個人所有の8ミリフィルムにも、数十年前の弘前の様子がわかる映像が存在することから、弘前の貴重な映像を、史料として後世に残していくため、家庭に眠るフィルムを上映する「ホームムービーの日」や、希望する町会への巡回上映会、昔の写真を使つての街歩き等、各種イベントを開催する。市民に映像史料の大切さを実感してもらうことにより、家庭に残るフィルムを残そうとする意識を高める。

## 事業内容

市民から寄せられたフィルムを鑑賞する、「ホームムービーの日」のほか、西弘ちょうちん祭りでの巡回上映、お寺で味わうサイレント映画、弘前路地裏探偵団・鹿田団長と写真でめぐる弘前、講演「市民による埋もれた歴史資料の掘り起こし」、展示「(昔と今の)『記憶』と『記録』を未来に残すということ」を開催した。

事業実施場所: 西弘ちょうちん祭り、盛雲院、めん房たけや、ヒロロ3階多世代交流室  
事業実施期間: 平成27年7月1日～平成28年3月31日

参加者数: のべ115人以上

補助金確定額: 491,000円(事業費: 569,082円)

## 事業による効果

様々な年代の人に参加していただくことができ、年代の違う、その場で一緒になった人たちの間でも会話が交わされ、交流が生まれた。

参加した方には、写真素材から弘前公園の歴史を、そして講演から青森県の歴史を知っていただくことができた。

## 今後の活動展開

「弘前路地裏探偵団・鹿田団長と写真でめぐる弘前」については、参加者からも講師側からも大変好評だったので、今後も定期開催していきたい。

そのほかにもインターネット等を活用しながら、展示企画の実施や町会連合会で地域の映像を見る会実施の提案などもしていきたいと考えている。



## 自己評価

どのイベントも参加者からは好評だったのでとてもよかった。数多くのイベントを実施したことで、1度参加した方が次回以降のイベントに参加してくれるなど、良い流れができてきた。



# 4

## 手造り屋台村

小沢地区屋台村実行委員会

### 事業目的

参加者の減少により50年続いた運動会が終了となったことから、地域住民がそれぞれに手造りの屋台を出店する「手造り屋台村」を開催する。屋台のほか、子どもから高齢者まで楽しめるイベントも実施し、地域内の活性化を図るとともに、地域住民の親睦を深め住みよい環境をつくる。

### 事業内容

「広がる『和の輪』あなたの来店で」をテーマに、地域住民自らそれぞれに手造りの屋台模擬店を設営(大きく分けて11店舗)。屋台の他、イワナのつかみ取りや津軽三味線、歌謡ミニライブ、ダンス、小学校の吹奏楽部の演奏など、子どもから高齢者まで楽しめるイベントを実施した。

事業実施場所: 清水公民館、小沢運動広場  
事業実施期間: 平成27年7月9日～平成27年9月4日  
参加者数: 500人  
補助金確定額: 295,000円(事業費: 532,755円)



### 事業による効果

2回目の開催ということで、食品の準備や農産物の手入れなど、地域全体が楽しい行事になるように協力心を深めることができた。  
また、小学校の吹奏楽部やりんご娘ミニライブの活気あるステージで地域の人たちの心を活性化することができた。

### 今後の活動展開

他の町会の出店や協力もあり、お互い刺激になったので今後も交流を深めていきたい。  
また、開催時期や開催時間については参加者の意見を聞きながら変更も検討していきたい。



### 自己評価

手造り屋台村の目的を理解した近隣町会からも全面的な協力を得ることができた。  
地域に住むたくさんの方の協力で開催することができ、来場者にも喜んでもらうことができてよかった。



## 事業目的

弘前には夜の時間を生かしたイベントが少ないことから、誰でも参加でき、一体感を楽しめる創作盆踊りのイベントを開催する。このために作詞・作曲・振り付けをした盆踊り「どん舞」をみんなで輪になって踊り、弘前の新しい夜の楽しみ方を発信するとともに、さまざまな人が交流するきっかけを創出する。

## 事業内容

「どん舞」という盆踊りの詞・曲・振り付けを作り、イベント参加者に振り付け講座を行い、みんなで円になって踊った。イベント内では、盆踊りのほかに「どんまいエピソード」を記入してもらおうコーナーや、「どんまいエピソード」を告白するコーナーを設けた。

事業実施場所：蓬萊広場

事業実施期間：平成27年10月1日～平成27年12月10日

参加者数：270人

補助金確定額：379,000円(事業費：464,038円)



## 事業による効果

子どもからご年配の方まで、多くの方が踊りを通して交流を楽しんでいた。特に学生の参加が多く、外に出向いてイベントに参加する楽しさを感じていただくことができた。また、出店を通して市内の新しい店舗を知る参加者も多く、新たな弘前市内での楽しみ方を提案することもできた。

## 今後の活動展開

イベント時に行ったアンケート調査の意見を踏まえて、保育園や老人ホームなどで振り付け指導を行い、「どん舞」を多くの人に知ってもらいたい。広報物の内容や開催時期について検討し、たくさんの方に楽しんでもらえるような工夫をしていきたい。



## 自己評価



想定していたよりも多くの参加者があり、予想以上の盛り上がりを見せた。また、小さい子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方に楽しんでいただくことができ、弘前の夜を盛り上げることができたと考えている。



## 事業目的

姉妹会を締結している弘前市民俗芸能保存連合会と台湾月琴民謡協会が音楽祭を開催する。伝統音楽や台湾文化を肌で感じていただくため音楽交流コンサートや月琴ワークショップを行うことで、音楽を通じて国際交流事業への発展につなげる。

## 事業内容

お互いの音楽文化をわかりやすく堪能してもらえるよう、津軽三味線と月琴の単純な演奏だけではなく、獅子舞や登山囃子等の郷土芸能や唄、踊りもプログラムに組み込んだ。歌や踊りは伝統的なものだけではなく、最近の曲など、多岐にわたる内容を心がけた。

事業実施場所：弘前市民文化交流館ホール、弘前市立観光館  
 事業実施期間：平成27年7月1日～平成27年8月12日  
 参加者数：300人  
 補助金確定額：500,000円(事業費：1,112,160円)



## 事業による効果

日本と台湾のお互いの郷土芸能を通じて、その共通点やコラボレーションの素晴らしさなど、音楽に国境はなく、それぞれの土地に思いを馳せながら感動を共有し、お互いに親近感を深めることができた。

月琴のワークショップでは、市民の皆さんと月琴民謡協会の皆さんが直接触れ合う貴重な機会となった。

## 今後の活動展開

市民の皆さんのアンケートや出演者の意見などを参考に、音響やプロジェクターの活用方法、プログラムやワークショップの構成などさらに事業内容を充実させていきたい。

月琴の魅力や郷土芸能を通じた交流の素晴らしさを感じてもらえたことが、より相互の交流を深めるために、物産展、料理ブース、台湾語レクチャーコーナーなどの開催も検討したい。

## 自己評価

たくさんの市民に事業の主旨や交流の意義を理解していただくことができ、パフォーマンスの内容は良かったと思う。

来客数を増やす工夫をしながら、今後も活動を継続していき、伝統文化の継承や、国際文化交流の発展につなげていきたい。







# 7

## ラベンダーロード再生事業

相馬地区小・中学校PTA連絡協議会

### 事業目的

昨年、管理が行き届かず、美しさを保てないでいたラベンダーを、綺麗な花を咲かせるように剪定をしたが、まだ株ごとラベンダーがない箇所が目立っていた。今年は相馬小・中学校の児童や生徒と地域の住民が一緒になって、花壇にラベンダー苗を植える。荒れた花壇を再生し、維持管理をしていくことで、地区内の景観の保全を図る。

### 事業内容

相馬小学校の児童及び相馬中学校の生徒、PTA、相馬地区の団体等が協力し、ラベンダー苗の植栽作業を行った。  
参加者をそれぞれ班分けし、遊歩道の約半分(1、1km)の花壇に約600株のラベンダーを植栽した。

事業実施場所:相馬中学校～相馬地区までの遊歩道 (通称ラベンダーロード)  
事業実施期間:平成27年4月1日～平成27年6月16日  
参加者数:187人  
補助金確定額:177,000円(事業費:197,438円)



### 事業による効果

荒れた花壇を手入れすることで、地域環境の美化の促進や相馬地区の景観の保全につなげることができた。

また、児童・生徒が保護者や地域に住む人たちとともに作業することで交流を深め、小・中学校の連携や健全な生徒の心身の育成を図ることができた。

### 今後の活動展開

今後も、校外学習の一環として小・中学校が地域と連携し、相馬地区住民が一体となって維持管理を継続していきたい。

これまで2度事業を実施し、維持管理作業に必要な道具をそろえることができたため、刈り込みなどの予算をかけずにできる作業は継続して実施していきたい。

### 自己評価



小・中学校の校外学習という限られた時間の中で、計画どおり全ての作業を終えることができ、環境美化意識も高まったと思われる。

暑い日差しの中、道路沿い花壇での作業であったが、熱中症や事故もなく無事に終了することができてよかった。





## 事業目的

少子化で部活動やスポーツ少年団もなく、運動をする環境がない地域の小学生のために、地域に出向いて定期的なスポーツ教室を開催する。送迎車を用意し、近隣の小学校に子どもたちを集めて運動することで、他校の生徒との交流を通して子どもたち自身のコミュニケーション能力の向上や、スポーツに親しむことを通して地域全体を巻き込んだ形での地域の活性化を図る。

## 事業内容

月ごとに開催校を変え、近隣学校への送迎も行いながら、定期的に各地域に出向いてスポーツ教室を開催した。種目はコーディネーション系の身体のベースとなる運動の他、バスケットボール、卓球、ドッチビー、大縄跳びなどを学生スタッフと連携しながら実施した。

事業実施場所：草薙小学校、修斉小学校、自得小学校、三和小学校、船沢小学校、高杉小学校、小友小学校、新和小学校、三省小学校

事業実施期間：平成27年5月8日～平成28年3月11日

参加者数：644人

補助金確定額：500,000円(事業費：1,104,405円)

## 事業による効果

放課後のスポーツに触れていない子どもたちに、スポーツの楽しさを知ってもらうことができた。また、週1回ではあるが、他校の児童と交流する機会ができたことで、コミュニケーション能力の向上につながったとともに、少しでもスポーツを好きになってもらうきっかけになった。

## 今後の活動展開

28年度は希望する子どもたちに参加してもらえる様に、近隣の小学校まで送迎を行いたいと考えている。

また、多くの子どもたちに参加していただけるように実施内容等も工夫していきたい。



事業自体は子どもたちに楽しんでもらえてよかったが、開催校以外の子どもたちの参加が少なかった。

また、最終的な目標であるスポーツ少年団の整理、地域で支えるシステムづくりに関してもあまり進展させることができなかったため、解決策を考えながら今後の事業を進めていきたい。

## 自己評価



事業目的

近年、地域住民の交流が希薄化していることから、地域内にある雑種地を近隣住民のいこいの場として活用していくため、地域住民の手で地域の交流農園として整備する。また、昨年整備を行った土地の一部は、地域にある保育園の園児などに利用してもらい、交流を図る。

事業内容

昨年に引き続き、雑木・雑草の刈り払いや廃材の処分作業を実施した。廃材量は見た目の想像を超え、昨年の量を上回ったが、全ての処理を終えることができた。昨年整地した畑地での作業ができるように、物置や仮設トイレを設置し、秋には収穫祭も行った。

事業実施場所: 向外瀬2丁目21-2 (交流農園)  
 事業実施期間: 平成27年5月1日～平成27年11月30日  
 参加者数: 555人  
 補助金確定額: 500,000円(事業費: 5,116,101円)



事業による効果

ゴミ置き場と化した荒れ地が見通しよく整備され、近隣住民から喜びの声が聞こえた。延べ500人を超える近隣住民の協力があり、地域活性化の原動力となり得ると確信が持て、今後の活動の励みになった。

↓Before



今後の活動展開

予算の都合で設置できなかった突き井戸、コンポスタの設置を検討していきたい。完成した3面の畑地では、野菜作りを通して異年齢が集うつながりの場、住民交流の拠点となるようにいろいろと企画していきたい。

↓After



建築残材が堆積し、ジャングル化した場所が広々と見通しが良くなり、見るからに景観が変わった。農園にも子どもたちの声がこだまし、応援する大人たちとの交流も微笑ましいものであった。

## 事業目的

弘前駅前公園及び遊歩道の週末の散策者・通行者が減少していることから、これらの場所を歩いたことがない市民が街歩きをするきっかけを作り出すため、市内外のJAZZバンドを多数招致し、ストリートライブ及びコンサートを開催する。イベントをきっかけに、より多くの市民が駅前の利便性に気づき、遊歩道を活用する人が増加することにより、地域の活性化へつなげる。

## 事業内容

駅前公園及び遊歩道にステージを設けてストリートライブステージを提供した。当日は、県内のジャズバンドやアカペラサークルの演奏の他に、周辺各店舗や露天商が外店舗の設営を行い、ジャズライブイベントを起爆剤として、弘前駅前公園及び遊歩道の活性化を図った。

事業実施場所：弘前駅前公園及び遊歩道

事業実施期間：平成27年7月1日～平成27年11月30日

参加者数：5,000人

補助金確定額：500,000円(事業費：667,255円)

## 事業による効果

天候や気温の割には多くの人が遊歩道を歩き、JAZZを楽しんでいただけるとともに、駅前にもまち歩きの楽しいエリアがあることを知ってもらうことができた。

## 今後の活動展開

多くの人に足を運んでもらいたいため、もう少し暖かい時期での開催を検討していきたい。  
また、参加バンドや周辺店舗の出店についても強化していきたい。



周辺飲食店経営者からはそろって「大きな集客効果があった」との意見が寄せられた。周辺住民からはねふた運行日より多くの人で賑わったのでは？という声もあり、駅前の活性化に寄与できたと思う。



